

「中長期ロードマップを受けた温室効果ガス排出量の試算」に関する
中長期ロードマップ小委員会でのご指摘に対するご回答

国立環境研究所 AIM プロジェクトチーム

1. ヒートポンプに関する想定に関するご指摘について

① 効率

2010年3月の試算では、カタログ値と実際の使用時の条件の違いによる性能の差異を考慮するため、一定の換算係数を用いている。ヒートポンプの使用時の性能は部屋の大きさと機器の能力の関係、室内外の温度差、室外機の設置環境等によって非常に大きな幅を示すが、平均的なデータとして、実使用時はカタログの性能に対し、6～9割（例：暖房時や給湯時で6割、冷房時で9割など）の性能を発揮するものとして計算を行っている。

② 使用時間

2010年3月の試算では、エアコンの「使用時間」を推計には用いていない。日本全体の冷暖房用の年間電力消費量と世帯数から世帯当りの平均的なエアコンの年間電力消費量を推計し、それを元に将来の冷暖房用電力消費量を推計している。

③ 冷媒

2010年3月の試算では、エアコンの冷媒の生産や消費段階における温室効果ガスの排出は、非エネルギー部門の代替フロン等3ガスとして計上している。また、対策としては、廃棄時の冷媒回収向上を現時点では見込んでいる。

2. 再計算（2010年7月）における想定の見直しに関するご指摘について

① 産業部門の天然ガス転換

2010年3月試算では産業部門の天然ガス比率は2020年、2030年ともに現状のまま（10%）で横這いとしていた。

② 燃料電池

2010年3月試算では高効率給湯器の内数として扱っており、高効率燃焼機器と特に区別して推計していなかった。

3. 農業分野の活動量の想定に関するご指摘について

① 2020年度まで

・作物の作付面積（生産量）及び家畜の飼養頭数について、農水省「食料・農業・農

村基本計画」(平成 17 年 3 月)における 2015 年度の生産目標に基づいて想定した。2016 年度～2020 年度については、作物・家畜種ごとにトレンドを考慮の上、外挿もしくは 2015 年値横這いと想定した。

② 2021～2030 年度

- ・ 2021～2030 年度については、人口減少の影響により、作付面積・飼養頭数とも減少していくと想定した。

注) 2010 年 3 月に新たな「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定されており、2020 年の生産目標が提示されている。今後、当該計画との整合を図っていく予定である。

4. 今後の試算（再計算）に関するご指摘について

現在、各 WG において、中長期ロードマップ小委員会やパブコメ等で頂いた意見を参考に、鋭意ロードマップの内容を精査している最中であると聞いており、それらの結果が得られ次第、モデルを用いて全体の整合性のとれた試算（再計算）結果を示していきたい。

以上